

I 実践

1 研究主題「自分や他者の権利を守り、誰に対しても公正・公平に振る舞える生徒の育成」

(1) 主題設定の理由

本校では、日立市の人権教育の研究主題をもとにサブテーマとして①「人権に関する課題を把握し、理解することで健全な人権感覚や人権意識の育成を図る」②「差別や偏見の不合理性を正しく理解し、差別しない、させない人権尊重の精神を育てる」を目標としている。

①については教師と生徒が人権教育の課題は何かということを常に追求しながら学んでいくとするものである。②については生徒たちが世の中で生きていく上で必要な「差別をなくす気持ち」を各教科・領域の全分野において育てていくことである。人権教育を進めていく上でどのような取り組みをしていくとより効果的であるかを研究したいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

① 人権教育の課題把握（「茨城県人権推進基本計画」から抜粋）

- | | |
|-------------|------------------|
| ア 子どもに関すること | オ 同和問題に関すること |
| イ 高齢者に関すること | カ ハンセン病・HIV感染症等 |
| ウ 障害者に関すること | キ インターネットによる人権侵害 |
| エ 外国人に関すること | |

② 一人一人を大切にした授業の展開

③ 道德教育の充実

④ 思いやりの心を育てる活動

- ・あいさつ運動
- ・生徒会活動（クリーンアップ滑川、体育祭、潮風祭、各種募金活動）
- ・学校便り、学年便りによる家庭への啓発
- ・地域との交流（敬老会。三世代交流のボランティア活動）

2 実践事例

(1) 第1学年総合「自分の生き方を見つめよう～福祉を学ぼう～」

① 目標

- 福祉体験活動を通して人間としての生き方やあり方を見つめ、よりよい福祉社会をつくるための課題設定及び課題解決学習ができる。
- 福祉体験活動のみならず、事前・事後の調べ学習を通してボランティアシップの意義を理解し、助け合い協力し合って生きようとする「他人を思いやる心」「人にやさしい心」「進んで奉仕する心」を高め、自己の生き方を考えることができる。

② 育てたい力

- 様々な人との交流や体験をもとに問題に気付いたり、発見したりして自分の課題を設定することができる力（課題設定の能力）
- 必要な情報を収集・選択し、見通しを持って問題を追求できる力（問題解決の能力）
- 課題解決に向け、体験を生かし、資料やいろいろな調べ活動を通して、自分の意見をまとめる力（学び方・ものの考え方）
- 話合や共通体験に積極的に参加し、活動を深めたり広げたりすることのできる力（学習への主体的・創造的な態度）
- 自分の体験や意見を工夫してまとめたり、発表したりする力（表現力）
- 学習で身に付けた見方・考え方をふり返り、自分の生き方やこれからの生活の中に生かすことができる力

ウ 事例内容

福祉体験活動では、「自分も他人もちょっとでも幸せになること」を福祉と捉えて、小さなことでも誰かのためになることを考え、即実行する、という活動を行った。以下は活動の一部である。



落ち葉さらい



図書室の整頓



体育倉庫の清掃



ベルマーク等の収集



校舎内外の清掃



あいさつ運動

(2) あいさつ運動

本校では、ほぼ毎日あいさつ運動を行っている。毎週水曜日は学級ごとに順番で生徒と保護者及びPTA 役員、月・火・木は生活委員、金曜日は生徒会役員が昇降口に立ち登校してくる生徒へあいさつの呼びかけをしている。



(3) hyper-QU や生徒指導アンケートの活用

本校では、学校経営の基本理念の「本校の生徒像」にある「豊かに」の具体的施策の中に hyper-QU アンケートの位置付けている。本年度も全学年においてアンケートを実施した。(5月, 11月) 結果を各担任が分析し、学級全体の傾向や配慮を要する生徒への今後の関わり方について検討し、レポートにまとめた。また、毎月の学校生活アンケート、学期ごとのアンケートを行い生徒一人一人の学校生活での様子の把握に努めている。

3 成果

福祉体験活動では福祉を身近に感じ、普段の生活の中でも自分にできることがたくさんあること、自分たちもたくさんの人に支えられて生きていることに気付くことができた。そして自分自身を見つめたりこれからの生き方について考えることができた。

あいさつ運動や各種募金活動などに積極的に関わろうとする生徒が増えた。担当者や各担任の継続した呼びかけに感謝しつつ今後も続けたい。

hyper-QU アンケート等の結果を分析しレポートにまとめることは、今後生徒とどう関わっていくか具体的に考えることができていく。ただしアンケートの結果が全てではないので、配慮を要する生徒としてあげられてなかった生徒にも気を配っていく必要がある。

II 今後の課題

- ・生徒一人一人の自己肯定感の育成
- ・教職員の人権意識を高める校内研修